

JCHO うつのみや病院  
腎臓内科後期研修プログラム

【研修の概要】

慢性腎臓病の患者数は1300万人(成人の8人に1人)と推定され、慢性透析患者数は増加が鈍化しているものの30万人を超え増加中である。腎疾患は **common disease** であり、他領域の疾患に合併することも多い。腎疾患治療について研修する中で輸液など内科治療一般についても幅広く理解を深めることができる。

当院では外来では腎臓内科外来、腎不全専門外来を開設しており、検診での尿異常から保存期慢性腎不全、透析導入前までの外来治療を行っている。慢性糸球体腎炎に対し経皮的腎生検を施行し、病理診断、ステロイド・免疫抑制薬治療など施行している。末期腎不全については平成4年に開設した透析センターにおいて血液透析導入期の入院・外来治療、透析合併症に対する入院治療を行っている。また腹膜透析について、導入は自治医科大学附属病院腎臓内科に依頼しているが、腹膜透析外来にて維持腹膜透析治療を行っている。

外来・入院を担当し急性・慢性腎疾患について幅広く研修することができる。

【研修の目標】

後期研修3年間で急性・慢性の腎疾患について入院・外来診療をひとつおりに身に付けることを目標とする。

尿蛋白陽性や顕微鏡的血尿など検尿異常や急性腎不全、急速進行性糸球体腎炎症候群に対し腎生検や治療の適応について判断できる。食事療法、生活指導、薬物治療など保存的治療を理解し実践する。急性・慢性不全に対し血液透析・腹膜透析など腎代替療法の適応や療法選択、透析導入期管理について理解し実践する。慢性維持透析において透析合併症治療を理解し実践する。早期から末期腎疾患まで全般的に研修し、一貫して治療できるようになる。また地域の二次病院として三次病院や透析クリニックとの医療連携を行う。

<修得目標手技>

- ・エコーガイド下経皮的腎生検
- ・腎臓超音波検査
- ・透析用短期留置型ブラッドアクセス用カテーテルの挿入術
- ・内シャント造設術の助手を経験し、シャント造設術について理解する
- ・シャント造影、(シャント経皮的血管形成術 PTA)

【研修のスケジュール】

S1：病棟、透析回診、内科初診外来、腎臓超音波検査

S2：病棟、透析回診、腎臓内科外来、腎臓超音波検査

S3：病棟、透析回診、腎不全専門外来、腹膜透析外来、腎臓内科外来、腎臓超音波検査

**【修得できる資格】**

透析専門医

**【学会発表】**

日本内科学会、日本透析医学会、日本腎臓学会での年1回の発表を行う

**【指導医】**

◎院長：草野 英二

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医、  
日本内科学会指導医、日本腎臓学会腎臓指導医、日本透析医学会指導医

◎腎臓内科診療部 部長 山本 尚史

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医

◎腎臓内科診療部 医長 中澤 英子

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医

◎腎臓内科診療部 医員 武島 えり

◎非常勤：岡田 和久

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医  
ICD 制度協議会インフェクションコントロールクター (ICD)、日本科学療法抗菌薬臨床試験指導医  
日本医師会認定産業医、抗菌化学療法認定医

**【その他、研修の特徴など】**

当院透析センターは10床ですが、常時25名前後の血液透析治療を行い、その他、血漿交換、LDLアフェレーシス、白血球吸着療法など特殊浄化治療も適宜行っています。年間20例前後の新規血液透析導入や、透析合併症や手術治療について40~50例の入院透析を行っています。小さな透析センターですがアットホームな雰囲気です。